

第7回 長安ロダム環境モニタリング委員会 議事概要

1. 日 時：平成29年2月8日（水）14：00～16：00
2. 場 所：ホテル千秋閣 7F 鳳の間
3. 出席委員：河口 洋一（徳島大学 准教授）
木下 覺 （徳島県植物研究会 会長）
小林 實 （河川・溪流環境アドバイザー）
松田 春菜（四国大学 講師）
森本 康滋（徳島県自然保護協会 会長）（欠席）
山田 量崇（徳島県立博物館 主任）
山中 亮一（徳島大学大学院 講師）
◎湯城 豊勝（阿南工業高等専門学校 名誉教授）
（五十音順棲、◎：委員長）
4. 配付資料：
資料1 議事次第、配席図、委員会規約
資料2 長安ロダム改造事業の進捗状況[概要版]
資料3 環境モニタリング調査の基本方針及び実施状況[概要版]
資料4 長安ロダム改造事業に係る平成28年度モニタリング調査の実施状況及び
評価結果[概要版]
資料5 長安ロダム改造事業に係る平成29年度モニタリング実施計画書(案)[概要版]
資料6 貯水池機能保全に向けた堆砂管理計画について（情報提供）
別添資料1 補足資料
その他 参考 傍聴される方へのお願い
参考 取材についてのお願い
5. 議 事：
(1) 長安ロダム改造事業の進捗状況について
(2) 平成28年度のモニタリング調査結果について
(3) 平成29年度のモニタリング実施計画（案）について
(4) 貯水池機能保全に向けた堆砂管理計画について（情報提供）
6. 議事概要：
第7回長安ロダム環境モニタリング委員会において、長安ロダム改造事業の進捗状況、環境モニタリングの基本方針及び実施状況、平成28年度モニタリング調査の実施

状況及び評価結果、平成 29 年度モニタリング実施計画書(案)について審議を行った。

(1) 平成 28 年度モニタリング調査の実施状況及び評価結果について

【騒音・振動】

- ・特になし。

【水環境】

- ・貯水池の、今回のような水質の異常値(H28.6のクロロフィルaの上昇等)は、外部負荷の可能性もあるので、異常があった場合には、適宜そのような状況を把握していく必要もあるだろう。
- ・何らかの水質の急激な変化や異常等が生じた場合には、原因を究明するための追加調査等を実施も検討できるように、フローの中で対応を検討していただきたい。

【植物】

- ・ナンゴクウラシマソウについては、調査や保全措置の対応等適切に実施しており、非常に成功した例と考えられる。
- ・ラン科 B など不測の事態(ネズミ類による食害)なども生じているが、地元の有識者にもヒアリングしながら対応するなど、全体的によく対応されていると考えられる。今後も順応的な管理を通じて対応していただきたい。

【猛禽類】

- ・猛禽類については 8 年間調査されているが、特に影響などは見られておらず、騒音についても問題のないレベルである。調査地点の追加や調査回数の増加などを提案したが、臨機応変に対応している。オオタカは、北の方で出現しているようである。サシバの古屋ペアはずっと営巣しており、H28 は繁殖に成功した。ハヤブサもうまく繁殖しているようである。なお、工事等による影響はないだろう。ブッポウソウとオオアカゲラについても、工事箇所から離れているので問題はない。
- ・猛禽類の工事騒音等に対する忌避行動が確認された場合には、行動の内容について具体的に記載した方がよい。

【下流河川調査結果】

- ・底生動物のうち、特に水生昆虫は調査結果のばらつきが大きく、1 箇所では少なく偶然性に左右されるので、(早瀬・平瀬とも) 2 回以上繰り返すか、2 箇所以上で採取した方がよいと思われる。また、河床環境などについても併せて調査することが望ましい。
- ・底生動物の生息条件は、水質よりは物理的な環境が重要なので、種数と個体数の解

析だけではなく、どのような種類がいたのかという点にも注目して解析する必要があると考えられる。

(2) 平成 28 年度モニタリング実施計画書（案）について

・特に意見はなく、計画は了承された。

(3) その他

・特になし。

以上の議事を踏まえ、平成 28 年度モニタリング調査結果および平成 29 年度モニタリング実施計画書は了承された。

(以上)